

## シルバー学習室が40周年を迎えました

昭和55年に始まったシルバー学習室(第1期)が、今年度で第40期を迎えています。

この講座は、毎年4月に募集を行い、1年間さまざまな講座を体験します。講座修了後は、心遊会という団体へ加入することができ、いろいろなサークルで楽しく活動されています。この節目を迎えるにあたり、現在の参加者と修了者の方、さらに講師の方々の声をご紹介します。



みんなで協力して調理します

私は公民館だよりを見て、面白そうだと思います。シルバー学習室に申し込みました。最初はどんな集

謝します。  
今年はずっと皆さんの友が出来ました。それはシルバー学習室の皆さんと約30回の講座を一緒に学んで交流したお陰で深まった絆です。そして、公民館の企画が素晴らしいからです。又スタッフの皆さんの毎回の心配りや親切な対応に感謝します。

シルバー学習室に参加して  
村松 進(40期)



第 719 号

2020年1月5日

(令和2年)

「くくにたち公民館だより」  
ホームページのQRコード▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

い内容は何？メンパーとは仲良くなれるだろうか？不安がありました。様々な企画、プログラムが用意されており、あつという間に楽しく、半年が過ぎました。参加者は20名弱の集いです。最初は「健康を考えたい手軽な料理」講師は北川みどり先生です。参加者が4班に分かれて毎回健康的でヘルシーながらカロリーもあり三大栄養素のタンパク質・脂質・糖質のバランスの取れた食生活を考えた様々な料理メニューを考えて頂きました。毎回美味しく、全4品の献立、デザートまで学びました。全4回とも班の4名5名で分担しながら調理しますが、この時も班の方々とはコミュニケーションが取れ、男性の私には随分と学ぶこと、参考になることが多く、お陰で家庭でも実践が出来ました。今でもアルミホイル焼きが印象に残り、野菜と、サーモンや

## 迎春



鯛(魚系)を入れてレシピと同じように、美味しく作る事が出来るようになりました。

次の活動テーマは野外活動です。季節の良い5月・6月に矢川駅に集合して徒歩で2時間程の時間をかけて、周りの景色や地形を観察しながら散策をします。この時の講師が佐藤節子先生で、矢川緑地の自然環境や保全地域であること、崖線(ハケ)から湧水が豊富に湧いて地域の生活にも役立つこと、ことや水生植物が保護されて環境保全にも取り組んでいることなど、初めて見聞きする事を、分かり易く丁寧に解説して頂きました。2回目は矢川駅から知道を歩いて四軒在家公園に寄り休憩です。なんとここは古墳が発見され移築復元された公園です(知りませんでした)。その次にママ下湧水に行き、冷たい湧き水に触れながら、矢川おんだしで豊富な用水路の中の魚

を覗きながら、視線を上げると、7月の朝顔市の時にたくさん並ぶ朝顔の栽培ハウスを発見しました(ビックリ)。佐藤先生は、常に自然環境や国立の郷土について説明をされて、毎回国立の再発見が出来ました。2時間ほどのゆったりとした散歩を終了すると、当日の感想を俳句にしてみましたと言われます。後日いくつか提出すると、佐藤先生のお人柄で、素人の内容にもお褒めの言葉、コメントを添えて頂き戻ってきます。俳句は下手でも褒めてもらうことに意義がありました。(笑)



矢川緑地を散策

次は水彩画入門です。講師の松本キミ子先生方式の三原色(赤・青・黄色)を混ぜて皆さんの色を作りながら描きますが、三原色(三色)だけを使うことに、初めは、眼から鱗でした。題材テーマは、もやし、空(雲)、毛糸の帽子のスケッチでした。絵は何十年も描いてないし苦手意識が有りませんでした。最初は三色を混ぜて色作りから始め、難しかったのに慣れて

くると楽しくなり、「キミ子方式」で描くことが段々と楽しくなりました。出来栄えについても様々な描き方があり、正解はないと言われて安心して描けました。

次のテーマは「リトミック」。

濱谷紀子先生の音を楽しみながら体を動かす。その通りでいろんな楽器(見たこともない珍しい楽器もあり)を使用して運動をするのですが、柔らかく動いて、最後にはリズムも取れるようになり楽しい時間でした。ハードでは無いので安心してできました。

「くにたちの昔の暮らしを知り、時代を振り返る(歴史)」では、講師佐伯安子先生に郷土文化館で国立の江戸時代から現代までの歴史・民族学・文化・生活様式を物語って頂きました。明治30年生まれ以降の当時のお年寄り百名から聞き取り調査をされた内容、まさに生き字引で明治時代の国立(谷保村)、まだ電車も無く荷車(大八車)の時代の農家の厳しかった生活様式等を時系列で解説頂きました。鉄道は明治22年に新宿と立川間が開通するも国立駅は大正15年に開業、昭和4年に南部鉄道が分倍河原と立川間で開業のようです。詳しくは郷土文化館に掲示、展示されています。

そして何回目からか男性参加者

が4名揃い学習室の帰りに、お昼時でもあり、オヤジランチを会場近くで重ねるようになりました。当日の講義のこと、趣味や健康の話、国立の食事のお店等について語りつつ、時間と絆を深めています。

まだこれからも、2月までプログラムが続きますので残りの企画も楽しみにしています。

### あれから、もう十年

宮本 美代子(30期)

「光陰矢の如し」この寄る年波の身にはしみじみ実感する言葉です。思えば私達30期がシルバー学習室で、お世話になってからもう十年が経ってしまいました。国立市の住人と言うだけで、何の関わりも絆も持たない、それぞれ異なった人生を何十年か歩んで来た20数人の男女が、色々な道筋をたどって、一堂に集ったのです。最初から和気藹々と言う雰囲気では決してありませんでした。自己紹介の時も、最初のお料理の時間も「いんじゃないの?その位」と思う様な事にも角の立つ言葉が行き交ったり、学習室なんだけれど、「シルバー」という修飾語がつくと遠い昔の教室とは随分違うんだと納得しました。でも、その学ぶと

言う言葉の響きは、何故か郷愁を呼び戻しました。絵画講座……絵具三色だけで?モデルは、もやし一本?シヨウちゃん帽?雲?家の中に閉じこもっていたら決して体験出来ない驚きでした。植物観察……小春日和の田んぼの畦道を皆で、先生の説明を聞きながら歩く、小さな虫達を驚かせたり、子供の頃勝手に名前をつけて遊んでいた雑草にも、ちゃんと名前がある事を教えて頂いたり、回を重ねる毎に仲間同士も打ち溶け合って、文章を書く講座では、お隣の人を文章で表現するのに難なく、その人の褒める箇所を見つけていました。音楽やリズムの時、束の間、歳を忘れて飛んだり跳ねたり歌ったり、調子はずれると遠慮なく笑い合ったりして、毎週水曜日が楽しみになっていました。最後の行事は日銀に連れて行って頂きました。その時の話が、3、4年前、細々と続けている期会の食事で出ました。その中の一人が「私はその時欠席していたんだっけ。何も憶えていないから」と言ったので、「最後のお別れ会みたいなものだから全員参加した様な気がするけどね」などと話し合っって別れました。念の為、その時の集合写真を見てみると、バッチリ決めこんだその人の笑顔が写っていました。

### 講師の声

シルバー学習室では素晴らしい講師のみなさんに講座を担当していただいています。その中から長年「担当」いただいている4名の講師に、講座への思いや印象に残った出来事などのお声をいただきました。

#### シルバー学習室 料理講座を担当して

北川 みどり

1993年に前任の方から当講座を引き継ぎ今日に至ります。26年の長期に渡り続けてこられたことを皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

シルバー世代は心身の健康に留意することが重要なため料理講座のタイトルを「健康を考えた手軽な料理」としました。料理講座は4回ですので各回で「栄養バランスとは」「高血圧予防の食事」「メタボリックシンドローム予防の食



事」「骨粗鬆症予防の食事」などのテーマでお話をしています。その後に料理を皆さんで作って片付けをします。料理のメニューを決めることが管理栄養士として悩む点であり楽しみでもあります。テーマに沿う料理、栄養バランス、簡単調理、入手しやすい季節の食材、費用、調理時間、器具食器類などの条件を満たすことはもちろんですが、一番大事なのは、作ることに楽しいこと美味しいことです。皆さんにそう感じていただけるような料理に、さらに料理を通して栄養や健康を考えるヒントになればと思っています。調理実習はグループワークになります。参加者の皆さんはいつも料理をしている方そうではない方、みんな料理を作るのは学校の家庭科以来という方など様々です。初対面が多いのですが人生経験豊富な方々ですので自然に協力しあい、手動き会話がはずみます。その様子を見て一緒に料理を作り食べる事

はなんと元気が出ることかと感じています。グループは公民館職員の方のアイデアにより毎回くじ引きで決めます。組み合わせが違うために4回終了の頃は皆さんが知り合って仲良くなっています。シルバー学習室の初めに料理講座を行うのは理にかなっているようです。意見を聞いたり話をしたり試行錯誤しながら料理講座は少しずつこのような形になってきました。これは参加の皆さんと公民館職員と講座担当者が互いに影響しあい作り上げてきたものです。

「学習」とは相互に影響しあうということでもあるのかなと思います。

**信じて、広めることを目指して**

松本 キミ子

小中学校で実践してそれは確かなものになっていったが、その事を実際に絵を描いていない人に理解してもらおうのは、とても難しいことだ。

絵を描くことは才能だと多くの人は信じている。「絵を描くのなんて私には無理」と逃げ出すほどだ。

そんな時、国立市の公民館で、シルバー教室が開かれた。その時一人の男性が「この方法はいいですね、練習がいらず、すぐ描けるから。訓練を必要とするものは、もう年だから間に合わないのです」といわれ、まわりのお年寄りの方が「そうです。そうです」と相づちをうったのであった。

私も東京藝術大学に入りたい一心で、高校時代は毎日、石膏デッサンをくり返し、爪から血を出したものだ。

気楽に安い道具で、誰でもすぐに絵が描けるやり方を発見したのは私の息子が学校で図工が大嫌いな



だったのがきっかけだった。小学校、中学校で、目の前の絵を描いた子ども達は信じてくれるけれど、その他一般の人には信じてもらえない。

「そんなこと信じられないよ」というのである。誰でも絵が描ける方法を発見するのは、なんとかなったが、今までの発想と違うやり方を信じてもらうのは、とてもむずかしい。

本を置き、多くの人に試してもらっても、あー私の方法「キミ子方式」を信じてもらうのは難しい!! 今迄の常識の否定だから。

**シルバー学習室 リトミック講座を担当して**

濱谷 紀子

日本ではリトミックという幼児教育のものと思われがちですが、この講座は本来のリトミックが持つ、人が豊かな感性を持つために、音楽と身体表現・感覚を使って、講座の仲間とともに交流すること」を目的としました。

音楽に助けられ体の中に眠っている感性を揺さぶり、心地よく動かし、今のありのままの自分を見つめることも大切になりました。歌うこと、楽器演奏することも楽しいことでした。また、瞑想のよう

にCDを聞きながら自然に浮かんでくるイメージを絵にする活動をしたこともありました。年々、心身がお若くなる講座参加者はまだまだこれから音楽で人生を切り開く時間をお持ちです。

印象に残っているいくつかのエピソードをご紹介します。もう25年以上前のものです。

- ・音楽を聞きながら瞑想した時に浮かんだイメージは、音楽好きな兄が指揮をしている思い出のシーンや、荒れている海にボートが流され、1本になってしまったオーケストラで兄が一生懸命漕いで陸へ向かってくれた姿。戦争で結婚する機会が無く、独身であった自分を助けてくれた兄たちが皆亡くなり、一人ぼっちになって地域に友を作りたいと頑張って参加したが、今までの人生や思い出を大切に生きていいんだ、そして無理せず仲間を作ればいいのだと肩の力が抜けたと言われる。
- ・形にとらわれず、今までの人生で身につけた体の癖も活かしながら自由にさりげなく、またはすつと伸ばす手足や体。それを講座の人たちと何かのかたちに即興的にまとめ上げていく面白さや、ポールや布、カラー板を使った音楽ゲームで童心に返ることもあった。会社生活で身につけた硬さが少し



**暮らしから見る谷保村(国立市)の歴史**

佐伯 安子

第40期 シルバー学習室年間予定表 2019年度

講座名	月日	場所
懇談会	5月8日(水)	公民館 地下ホール
健康を考えた手軽な料理 講師 北川みどり	5月15日(水) 5月22日(水)	福祉会館 料理講習室 //
春の自然に目をむける 講師 佐藤節子	5月29日(水) 6月5日(水)	野外(雨天:公民館 3階集会室) //
健康を考えた手軽な料理 講師 北川みどり	6月12日(水) 6月19日(水)	福祉会館 料理講習室 //
懇談会	6月26日(水)	公民館 3階集会室
誰でも三原色で絵が描ける (水彩画入門) 講師 松本キミ子	7月4日(木) 7月11日(木) 7月18日(木) 7月25日(木)	公民館 3階集会室 // // //
懇談会	7月31日(水)	公民館 地下ホール
音を楽しみながら体を動かす (リトミック) 講師 濱谷紀子	8月28日(水) 9月4日(水) 9月11日(水) 9月18日(水)	公民館 地下ホール // // //
懇談会・心遊会説明会	9月25日(水)	公民館 3階集会室
誰でも三原色で絵が描ける	10月3日(木)	公民館 3階集会室
秋の自然に目をむける (自然観察)講師 佐藤節子	10月9日(水) 10月16日(水)	野外(雨天:公民館 3階集会室) 昭和記念公園など(雨天:公民館 3階集会室)
地域を知る (地域探訪)講師 今村和義	10月23日(水) 10月30日(水)	公民館 3階集会室 野外(雨天:公民館 3階集会室)
くにたちの昔の暮らしを知り、時代を振り返る (歴史)講師 佐伯安子	11月6日(水) 11月13日(水) 11月20日(水)	郷土文化館 // 郷土文化館(古民家)
懇談会	11月27日(水)	公民館 3階集会室
高齢者の生活を考える など (リクエスト講座)	1月15日(水) 1月23日(木) 1月30日(木) 2月5日(水)	公民館 3階集会室 // // //
最終懇談会	2月12日(水)	公民館 3階集会室
バスハイク	2月19日(水)	野 外
バスハイク(予備)	2月26日(水)	野 外

\*日程、場所等は変更の場合もあります。

今年度のカリキュラムです。毎年、公民館だより4月号で募集記事を掲載しています。おおむね60歳以上の市内在住の方が対象です。みなさんも、春から、新しい仲間と新しいことを始めてみませんか!!

「認知症とともに生きる・ドキュメンタリー映画」

『ぼけますから、よろしくお願いします。』

監督 信友 直子 2018年 カラー102分

従来の認知症ドキュメンタリー映画のイメージを変える作品。広島県呉市。ドキュメンタリー制作に携わるテレビ・ディレクターである娘が、離れて暮らすことに良心の呵責を抱きながら撮った1200日の記録。認知症の母と90歳を超え耳が遠くなった父の日々の生活には修羅場もあるが、なぜか悲壮感はありません。年を重ね老いていくことが当たり前前のこととして受け入れられるような作品です。

上映終了後は、自由参加で感想を出し合うなど交流する時間も設ける予定です。

とき 1月16日(木) 昼1時~4時  
ところ 公民館 地下ホール  
定員 85名(当日先着順)

\*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。  
\*認知症とともに生きる実行委員会との共同企画です。



昔のようにまきで煮ました

「ありがとう!天国の先人のみなさん。」  
最後に郷土料理として着々と広めてまいりました「にーだんご」も皆さんで和気あいあいと作って楽しめました。  
「ありがたい!天国の先人のみなさん。」  
最後に郷土料理として着々と広めてまいりました「にーだんご」も皆さんで和気あいあいと作って楽しめました。

「くにたちブッククラブ 言葉に寄りそい時間を超えよ」

色川武大『怪しい来客簿』

(文春文庫)

講師 大木 志門 (山梨大学・日本近代文学)

とき 1月9日(木) 夜7時半~9時半  
ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館 ☎ (572) 5141

\*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

この歌のように昔から先人たちは家族を養うために荒地を耕し米作りに精をつくして来ました。私が、国立市教育委員会生涯学習課が立ち上げた「民具調査団」に参加、谷保地域を歩き回るようになったのが昭和54年頃でした。その後「くにたちの暮らしを記録する会」と名称が変わって現在まで、多くの人々に支えられて来ました。

吉植庄亮(明治生まれの歌人)

豊葦原瑞穂の国の国民に  
生れて樂し われは百姓たぐひ



「にーだんご」を愛情込めてこねます

その多くの方々へのご恩返しとのお返しと、伝えて行く活動を続けてきました。明治の時代に入ってから、谷保村の人々は、行政の定まらない中でも、野良仕事に精を出していたのでした。地主さんから田畑を借り受けていた時代ですから大変でした。そんな中でも一年を巡る年中の行事を大切に、そして楽しみ、知恵を出し合い、助け合っ

て生きて来たのでした。その暮らしの様は、今の私達には味わうことの出来ない豊かで暖かい、そして威厳のあるものでした。太平洋戦争が終るまで苦しい時代は続いていました。  
明治生まれの古老の方々が、その時の働き盛りの父と母でした。家族を守り、天神様の祭りを村があげて楽しみ、盆、正月には親戚が集いました。そんな生活は、みんな仲良く大人も子供も豊かな心を養い立派に生きていたのではした。  
私が古老に学んだ「国立」の昔を現在、市民の方々、市内の公立、私立小学校全11校の3年生に、その時代に使われていた民具と、聞き書きで学んだ物事を40年余り伝

〈平和について考える連続講座⑧〉

## 平和維持活動の今後について

講 師 井上 実佳 (東洋学園大学)

国際連合(国連)の創設から75年が経過しました。国連の安全保障理事会(安保理)は世界の平和と安全について主要な責任を担う機関です。しかし、冷戦期東西対立により安保理が機能不全に陥り、急ごしらえで世界の戦争・紛争に対処すべく設置されたのが「国連平和維持活動(PKO)」です。

紛争とテロとの密接な関連性も散見される中、難しい課題は一般市民が人道危機にさらされ、攻撃対象になっていることです。国連もPKOの変革に取り組んでいます。課題山積の中、紛争の解決のためには、誰が何をすべき(すべきでない)なのでしょう。

今回、アフリカに焦点を当てながら、PKOの歴史と現状、今後の展望についてお話を伺います。日本のあり方にも触れつつ、平和構築について皆さんと考える機会にしたいと思います。

〈井上さんの著書〉

『日本外交の論点』(共著)法律文化社、『国際平和協力入門』(共著)ミネルヴァ書房ほか

と き 2月2日(日) 昼2時~4時

と ころ 公民館 地下ホール

定 員 50名(申込先着順)

申込先 1月15日(水) 朝9時~  
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

〈子育て世代の防災講座〉

## 今から始めよう! 災害時の備え ~食と防災~

講 師 今泉 マユ子

(管理栄養士・防災士・災害食専門員)

子育て中の方やお孫さんを預かることがある方、災害への備えを改めて見直してみませんか。

地震や台風といった自然災害に私たちは、いつどこであうかわかりません。災害時のとっさの行動をはじめ、災害後に家にいる場合、避難所へいく場合などさまざまな状況を想定して今からできることを考えます。さらに、簡単に作れる災害食を一緒に作ってみたいと思います。

お子さんとご一緒でもご参加いただけます。

と き 1月21日(火) 朝10時~昼12時半

と ころ 公民館 地下ホール 定員 50名(申込先着順)

申込先 1月7日(火) 朝9時~  
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

協 力 KUNIBO(くにたち地域外国人のための防災連絡会)、まめっちょ

シネボックス シネマトーク

## 『用心棒』

東宝=黒澤プロ 1961年 白黒 110分 DVD版

監督 黒澤 明

出演 三船敏郎、仲代達矢、山田五十鈴、東野英治郎、加東大介、司 葉子、志村 喬、藤原釜足ほか

二人の親分が縄張り争いをしている荒れ果てた宿場町にふらりとやってきた、得体は知れないがめっぼう腕の立つ素浪人・桑畑三十郎。欲の突っ張ったやくざたちをそそのかし、ケンカをけしかけるこの男の企みとは?

全篇にあふれる荒々しさとブラックなユーモアがさえ渡る痛快娯楽時代劇であり、黒澤明円熟期の代表作。

三船敏郎の豪快な殺陣と、マフラーにピストルといういでたちのニヒルな殺し屋・仲代達矢の怪演には要注目!



〈シネマトーク〉

「黒澤明のいる風景 ~親族の見た知られざる素顔~」  
島 敏光(エッセイスト、映画レポーター)

上映終了後、黒澤明監督を伯父にもつ島敏光さんに黒澤監督との思い出についてお話をうかがいます。

と き 1月26日(日) 昼2時~夕5時(開場昼1時)

と ころ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)  
\*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

## アルミホイルコイン作り& 館内宝探しゲーム!

アルミホイルを積木で叩いたりしながら、大きさ・デザインなど自由に自分なりのコインをたくさん作ります。

後半は公民館でコイン探し(探したり隠したり)をします。地図を見ながら館内を親子でワクワクしながら宝探しを楽しみましょう。

講 師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

と き 1月19日(日) 朝10時~12時

と ころ 公民館 地下ホール

持ち物 動きやすい服装 ハンドタオル  
飲み物

対象・定員 子ども(3歳以上~小学生低学年)と保護者、15組(申込先着順)

申込先 1月7日(火) 朝9時~  
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1



しょうがいしゃ青年教室・喫茶わいがや

### 活動スタッフ募集中!

月1回の参加から、あなたの世界を広げてみませんか?

公民館にある喫茶コーナー「わいがや」・しょうがいのある方とともにレクリエーションを行う「しょうがいしゃ青年教室」では、一緒に活動するスタッフの仲間を募集しています。しょうがいのある・なしに関わらず、みんなで楽しみ合い、ともに学び合うことを目指した活動です。

ハンドドリップコーヒーを淹れてみたい……新しい自分の居場所があると楽しいかもしれない……そんな、ちょっと自分の世界を広げてみたい気持ちがあれば、ボランティアの経験がなくても月1回の参加からでも大丈夫!ぜひお気軽にお問合せください。



美味しいコーヒーをどうぞ



みんなでバーベキュー!  
(お出かけ企画もあります)

対象: 10代後半~30代くらいまでの活動に興味のある方

申込・問合せ先(随時): 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

e-mail: sec\_kominkan@city.kunitachi.lg.jp

〈図書室のつどい〉

### 『はじめてのギリシア神話』

講師 松村 一男 (和光大学)

皆さんはギリシア神話にふれたことがあるでしょうか。ゼウスやヘラクレスといった多様な魅力的な登場人物に、心躍るような物語の数々。描かれたのは、神話が創られた当時の人たちの関心事でした。ギリシア神話が現在まで、人々を魅了してきたのは、「人間である以上、どの時代、どの地域に生きたとしても、共通の関心や経験があるはず」と松村さんはおっしゃいます。

今回は、ギリシャと他の国の神話との比較や、地域性から生じる特徴を中心に、これまでとは異なる神話の解釈を伺います。

まだ見ぬギリシア神話の世界を感じてみませんか。

〈松村さんの本〉

表題作(ちくまプリマー新書)、『神話学入門』(講談社学術文庫)、『神話思考』(言叢社)『図解 ギリシア神話』(西東社)ほか多数。

とき 2月1日(土) 昼2時~4時

ところ 公民館 3階講座室

定員 35名(当日先着順)

\*申し込みは不要です。ご自由においでください。



〈一橋大学連携講座〉

## 写真をめぐって—光の軌跡、社会の痕跡

写真は19世紀初頭にフランスとイギリスで発明されて以来、時に社会や個人の記録であり、また時に写真家個人の作品でありながらも、実はそのいずれにも抵抗を示す独特で奇妙な媒体として発展して来ました。

光の軌跡をさざ波のようにたたえた表面としての写真は、その波紋を近現代の政治と社会、都市、絵画や文学、さらには歴史や時間の概念に幾重にも及ぼして来たと言えます。

今回の連携講座では一橋大学・言語社会研究科所属の2名の若手研究者と研究科卒業生を含む3名の若手写真家・美術家がそれぞれの視点から「写真」をめぐると多様な思考と実践をみなさんに紹介します。

写真家本人の作品を含む数多くの写真や映像も公開します。受講者の皆さんとの対話時間も含む、双方向型の講座となります。

◆第1回: 2月2日(日)

「東京オリンピックと写真—芸術と記録の深淵に」

講師 井上 絵美子(一橋大学言語社会研究科博士課程)

◆第2回: 2月16日(日)

「揺れるまなざし—都市と写真について」

講師 松澤 優(一橋大学言語社会研究科修士課程)

◆第3回: 3月1日(日)

「写真と時間をめぐる幾つかのこと」

講師 仲宗根 香織(写真家)

◆第4回: 3月14日(土)

「写真家が書くこと」

講師 川崎 祐(写真家、一橋大学言語社会研究科卒)

◆第5回: 3月28日(土)

「写真と絵画の間に—接近、露呈、腐食」

講師 根間 智子(美術家・写真家)

※全5回のナビゲーター:

井上 間從文(一橋大学言語社会研究科准教授)

時間 昼2時~4時(全5回)

ところ 公民館 3階講座室

定員 25名(申込先着順)

※5回連続で参加できる方を優先します。

申込先 1月14日(火)朝9時~

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

# 気候変動と脱炭素社会

近年頻繁に発生している異常気象による災害は私たちの生活に大きな脅威となっており、2019年に日本を立て続けに襲った台風による被害は記憶に新しいところです。

この異常気象の原因の一つとして温室効果ガスが指摘されてきており、2015年に採択されたパリ協定では温暖化対策として今世紀後半に脱炭素社会の実現を目指す長期目標を定められました。先月行われたCOP25(国連気候変動枠組み条約第25回締約国会議)では、温室効果ガス削減量の国際取引の仕組み等について話し合いがもたれました。

アメリカのパリ協定の離脱表明、日本も温暖化対策に積極的とは言えない等、道筋に不透明な部分もありますが、世界的な枠組みが動きつつある中、私たち一人ひとりでできること、取り組めることは何でしょうか。気候変動の実態や課題、脱炭素社会に向けた方向性等を理解し、自分たちができる取り組みを考える機会にしたいと思います。

回	日時	テーマ	講師
1	1月30日(木) 夜7時～9時	気候変動の現状 と今後の課題	住 明正 (東京大学)
2	2月15日(土) 昼2時～4時	気候変動問題と 脱炭素社会	高村 ゆかり (東京大学未来ビジョン研究センター)

ところ 公民館 地下ホール  
定員 50名(申込先着順)  
申込先 1月9日(木)朝9時～  
公民館 ☎ (572) 5141



\*連続講座ですが、1講座からでも参加できます。

## 公民館運営審議会は12月10日付で次の要望書を提出しました

令和元年12月10日

国立市長 永見 理夫 様

国立市教育委員会教育長

是松 昭一 様

第32期国立市公民館運営審議会

委員長 三好 紀子

### 第9次地方分権一括法の成立に伴う今後の公民館の所管に関する要望書

令和元年5月31日に行われる第9次地方分権一括法の成立に伴い、社会教育法等が改正され、公民館をはじめとする公立社会教育施設について、地方公共団体の判断により、教育委員会から首長部局へ移管することが可能になりました。国立市公民館運営審議会では、今回の制度改正を受け、新制度の内容についての理解を深めるとともに、新制度を踏まえた今後の公民館の運営のあり方について協議をしてきました。

協議の中では、公民館を首長部局の所管とすることには、①教育行政の一般行政からの独立の原則を損ないかねないこと、②専門的

な観点からの人事異動や職員研修がなされなくなり、専門的な職員体制を維持することができなくなること、③国立市において伝統的に守られてきた社会教育行政の枠組み自体の弱体化を招きかねないこと、などのさまざまなデメリットや危険性が指摘されました。こうした協議の結果、国立市においては、国立市公民館条例第3条に定められた公民館の教育委員会による所管を今後も継続するべきであるとの結論に至りました。

国立市教育委員会では、平成29年に公民館の運営形態に関して、今後も直営での運営が望ましいことが確認されていますが、これは、教育委員会が所管することを当然の前提としたものであったと考えられます。今回の公運審の結論は、従来から教育委員会の中で確認されてきた方向性とも共通の認識に立つものです。

これらのことから、以下のことを要望します。

#### 記

1. 国立市・国立市教育委員会は、今後も公民館の教育委員会による所管を維持していくこと。
  2. 国立市教育委員会は、今後も公民館の直営での運営を維持していくこと。
- 以上

## 公民館運営審議会報告

12月10日(火)第32期第14回定例会を開催。委員13名、館長、職員2名出席。傍聴人4名。

### 前回議事録確認

### 報告事項

○公民館だより編集研究委員会  
編集方法の工夫について協議したり、意見をいただいた。今後の作成に生かしたい。

○社会教育委員の会  
生涯学習振興・推進計画の情報発信に係る議論について報告があった。

○東京都公民館連絡協議会  
第56回東京都公民館研究大会(令和2年2月1日)第4課題別集会について案内。

○社会教育学習会検討委員  
12月5日(木)に社会教育学習会を実施。参加者36名。参加した委員が感想を述べた。

### 協議事項

○公民館の所管に関わる要望  
三好委員長より修正案の提案。前回話し合った内容が反映されているか確認。誤字を修正の上、12月10日付で市長及び教育長へ送付。公民館だよりにも掲載し、市民にも周知する。

○職員体制の人事要望について  
三好委員長より原案の提案。文言等を吟味。継続審議とし、次回確定させる。

○今後のスケジュール・方向性  
各自でよく内容を確認した上で、次回意見を述べる。

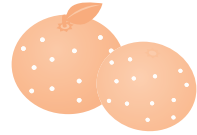
次回定例会は1月14日(火)夜7時15分から。傍聴歓迎。(田中)

## 今月の公民館 (1月、2月初)

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 9日(木) 夜くにたちブッククラブ  
色川武大『怪しい来客簿』
- 16日(木) 昼\*認知症とともに生きる・ドキュメンタリー映画  
『ぼけますから、よろしくお願いします。』
- 18日(土) 夜 平和について考える連続講座⑥  
「日本の戦争報道から考える平和とは  
～シリア人質事件の真相と戦争取材の意義～」
- 19日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう  
「アルミホイルコイン作り&館内宝探しゲーム!」
- 19日(日) 昼 平和について考える連続講座⑦  
「『誉れの子』と戦争  
～“お国のため”に利用された子どもたち～」
- 19日(日) 昼～初めての銅版画
- 21日(火) 朝 子育て世代の防災講座  
「今から始めよう!災害時の備え～食と防災～」
- 26日(日) 昼\* CINEVOX シネマトーク『用心棒』
- 30日(木) 夜～「気候変動と脱炭素社会」
- 2月1日(土) 昼\* 図書室のつどい  
「はじめてのギリシア神話」
- 2日(日) 昼 平和について考える連続講座⑧  
「平和維持活動の今後について」

# ひろば



### フォトサークル会員募集

写真を楽しみたい方、一緒に活動してみませんか。「フォトサークルくにたち」はデジカメ初心者で市内在住、60歳以上のメンバーで構成するサークルです。  
日時 第二木曜日 朝10時  
場所 福祉会館等  
連絡先 甫守090(742)7905



### 有機農業の第一人者が語る日本の農業の未来

お話・澤登早苗氏(山梨のぶどう、キウイフルーツ有機栽培農家、恵泉女学園大学教授)三多摩たべもの研究会。連続講座第2回。  
日時 1月11日(土) 夕6時  
場所 公民館 講座室  
連絡先 野村0422(46)7570

## 公民館図書室 休室のおしらせ

図書館システムの更新及び蔵書点検のため、休室します。ご理解とご協力をお願いします。

【休室期間】  
1月28日(火)から2月6日(木)まで  
※新聞は、公民館休館日の月曜日を除き、朝9時から夕方5時までの間、2階事務室前で閲覧できます。

### 〈サークル訪問339〉 童謡・唱歌「ひまわりの会」

会場に入ると、先生の奏でる優しいピアノのメロディーが聴こえ、気持ち落ちついていく。参加する方々の表情も朗らかで、「ひまわりの会」で歌う機会を楽しみにしている様子が窺える。

月に2回、北市民プラザ多目的ホールに50人程が集まる。一度の休憩を挟み2時間弱、昔懐かしい歌から最近の歌まで、馴染みのある曲を中心に12曲程度、実に楽しそうに歌っている。

今年度から指導にあたる川端泉先生はピアノでもあり、ピアノの魅力を最大限に活かした伴奏により無理なく参加者の歌声を引き出していく。

歌う前に軽めの体操で身体と気持ちをほぐし、発声練習で徐々に喉を温める。ウォーミングアップが終わると、この日は「もみじ」「まっかな秋」の歌から入る。高音パートと低音パートを、それぞれが自由に選んで歌っているが、それでいて調和のとれた響きが会場にゆきわたる。

「最初は軽やかに、中盤はもつと流れるようにレガートで…」と先生の丁寧な指導を受けて、歌の情景を思い浮かべる。もう一度歌い直すと、細やかな抑揚が生まれ、

歌に表情が出てくる。参加者の歌声もさらに生き生きとしてホールに広がり、会場全体に一体感が醸し出される。取材の私も一緒に何曲か歌ってみた。思い切り声を出し、歌声の重なりに参加することの心地よさを体感することができた。

現在70数名の会員は女性中心で、男性は4人と少数だが、その低音はコーラスを支え、とても頼もしい存在になっているとのこと。傍らの男性の伸びやかな発声が印象的だった。

会場は採光の良い大きなホールで、年末には毎年恒例の、発表会を催している。年齢・性別問わず、いつでも見学、入会を歓迎。

日時 第2、4水曜朝10時～12時  
場所 くにたち北市民プラザ  
連絡先 新里(57)1062  
〈文・写真 末光翔〉



調和のとれた響きが会場に